

はじめに

西東京市は、武蔵野台地のほぼ中央、石神井川と白子川の2本の河川の上流域に位置しています。これらの河川沿いには、先史の時代、採集狩猟を主な生業としていた旧石器時代、縄文時代の人々が残した遺跡がいくつも見つかっています。

その中でも、石神井川の南岸に位置する下野谷遺跡は、今から4,000～5,000年前の縄文時代中期に流域の拠点となるような集落が千年もの間続いた大遺跡です。現代もみどりが豊かで生活環境の整った地域にありますが、かつては湧水も豊富で、水や森のみどりとといった自然と共存しながら、社会的なネットワークを広げることで、安定した、精神的にも豊かな生活を送っていたと考えられています。このような生活は現代に生きる我々にも多くの示唆を与えています。

下野谷遺跡は、そのような縄文時代のムラを都市部において保存することができる貴重な文化財として、平成27年3月に国の史跡に指定されました。

西東京市教育委員会では、この国民共有の財産を未来に確実に継承し、地域の大切な宝として活かしていくために「史跡下野谷遺跡保存活用計画」を策定しました。

この計画では、史跡を訪れた子どもや大人が新たな発見をし、自ら学ぶことが出来るよう、学校教育や生涯学習の資源として、また、まちのにぎわいを生み出すような地域資源として活用、整備をしていくことを通して、史跡が人やまちを結ぶ結節点となり、地域の誇りとなることを目指しています。

史跡のある高台に立つと、周囲の大学や小学校から未来を担う若者や子どもたちの声が響きます。縄文時代と未来が交差する風を感じ、この風を広く世界に発信していきます。

最後になりますが、本計画の策定にあたりましては、下野谷遺跡保存活用計画策定懇談会の委員各位、文化庁及び東京都教育庁からご指導、ご助言をいただきました。また、市民の皆様からも貴重なご意見を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。

平成30年3月

西東京市教育委員会